

回転寿司スシローで労組結成 青年ユニオン 31年ぶりに全国で指名スト 医労連

第94回メーデー 中央集会 (代々木公園) で報告

「フランスでは最大の盛り上がり」でメーデー 仏CGTからメッセージ

5月1日、「働くものの団結で生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそう」のメーデースローガンのもと、第94回メーデーが全国各地の会場で開催され、東京・代々木公園の中央メーデーには1万5千人を超える労働者が集まった。

集会では、歌声合唱の後フランス労働総同盟 (CGT) からのメッセージ、「フランスではマクロン政権の年金改悪に労働者の95%が反対し、第2次世界大戦後の最大の運動の盛り上がりの中でメーデーを迎えている」が読み上げられ、国民春闘共闘代表委員・全労連の小畑雅子議長が主催者あいさつをおこない、同時刻に開催の全労協などによる日比谷メーデーと連帯し同メーデー実行委員会の中島由美子代表幹事 (全労協・全国一般労働組合東京南部委員長) から連帯の挨拶を受けた。

集会では、労組・団体の決意表明がおこなわれた。大手回転寿司チェーン「スシロー」でアルバイトとして働く大学生が、首都圏青年ユニオン回転寿司分会を立ち上げ、徳島や仙台の女性パートが「学生さんが頑張っているのだから私たちも」と相次いで組合に加入し、要求実現めざしてストライキを行ったと報告。

また、今年2月に非正規労働者を含めて労働組合を立ち上げ、職場で多数派となった全印総連国際マイクロ写真工業社労組、そして、3月9日に全国の職場で指名ストを行った全日本国立医療労働組合 (全医労) から報告、決意表明が行われた後、メーデー宣言を採択し、力強い団結ガンバローで締めくくられ。ここでは、「スシロー」で労組を結成した「回転寿司ユニオン」、全国で指名ストを決行した「全医労」の決意表明を紹介する。 (YouTube 配信第94回中央メーデー参照)

回転寿司「スシロー」で労組結成 ストライキ決行

首都圏青年ユニオン「回転寿司ユニオン」

はじめまして。首都圏青年ユニオンの回転寿司分会です。僕は今大学二年生なのですが、ユニオンに加入してアルバイト先であり、今何かと話題の大手回転寿司チェーンスシローと交渉を行っています。ここでは少しお時間を頂戴してスシロー争議の話をごさせていたいただきたいと思います。僕がスシローでアルバイトを始めたのは高校2年の秋ごろでした。そのときから無給の準備時間や5分刻みで切り捨てる労働時間管理などに不満を持っていましたが、やはり受験勉強が優先で、職場の仲間と不満を言い合う程度にとどまっていた。

もとより、反抗心はある方だと自負していたので、大学に進学したら必ずたかかって改善させてやろうとも思っていました。その後、無事大学に進学し、首都圏青年ユニオンに加入しました。この時、スシローで働いている組合員は僕しかいませんでしたが、直後に縁あって同じく大学生のス

シローで働いているアルバイトがひとり組合に加入してくれて、2人で青年ユニオン内に分会として回転寿司ユニオンを立ち上げ、記者会見を行ないました。この記者会見のニュースを見て、仙台や徳島など首都圏にとどまらない土地から「大学生が頑張っているのに、私達が何もしないわけにはいかない」と50代、60代の主婦パートの方相次いで加入をしてくれました。

そして過日ナショナルセンターの枠組みを超えてたかかった非正規春闘の一環として、回転寿司ユニオンでも賃上げを求めたストライキを打ちました。仙台のストライキ行動では未組織のパート従業員も応援に駆けつけてくれて、後日、ユニオン加入を決意してくれました。はじめは学生アルバイトひとりの要求だったものが、主婦パートなど職場で中心となって働いている労働者にも受け入れられ、他の労組とも連携をしてストライキまで打ちました。まさに労働者団結の力が発揮されたのではないかと思います。

そして今、この代々木の会場を見渡しますと多くの労働組合の方がかけつけています。ここにいる労働者が、あるいはここにはまだいない未組織の労働者も含めて、手を取り、声をかけ合って立ち上げれば、我々の目指す社会もきっと実現できるのではないかと。そんな希望を見出すことができます。皆さん要求実現のため連帯して頑張っていきましょう。メーデー万歳！

31年ぶりにストライキ決行

医労連（全日本国立医療労働組合）

全医労（全日本国立医療労働組合）委員長の前園むつみです。全医労を代表して決意を述べさせていただきます。

医療体制の縮小を始め、様々な社会保障も切り捨てられてきた中での、新型コロナウイルス感染症拡大により、まさに医療崩壊の状況となりました。救えるはずの命が消えていく3年以上にも及ぶコロナ禍で、医療従事者として許せない状況が続きました。国立病院機構病院では、国や地域の要請に応じて、ピーク時はコロナ病床として140病院中110病院。約3000床ベッドを確保してきました。

国立病院は、もともと民間で実施することが難しいといわれる政策医療などを担い、地域の医療機関との連携を図りながら、患者の命を守ってきました。ところが、新型コロナウイルスの感染拡大により、これまで行われてきた医療を縮小する、あるいは今ある病床をコロナ病床に転用せざるを得ない状況となりました。全医労は、この緊急事態発生時におけるコロナ対応応援体制や派遣にも反対はしていません。国立病院機構で働く職員として感染症や災害時の対応の使命感を持っているからです。国立病院機構は2004年に独法化、さらに2015年に非特定独法化されています。

診療事業に対する国からの運営費交付金交付金もなく、自収自弁の経営を強いられており、経営状況を理由に職員の増員、賃金改善も軽視されてきました。全医労は、国立病院の機能強化を求める国会請願署名に取り組み、3年目になります。国立病院が感染拡大や災害時の対応を進めるためには、日ごろから余裕を持ったベッドや人員体制が必要であり、そのためには国が責任を持つべきと訴えています。

確かにコロナ受け入れのための補助金は支給されました。しかし、職員が自らの生活も家族をも犠牲にして頑張ってきたのに、補助金で積み上がったお金のうち、422億円もの大金を軍事に転用することが決定されました。この間、どれだけの職員が涙を流してきたでしょう。422億円をさらっていく国も許せません。そしてこんなに頑張っている職員の22年度の賃金改善を、経営の先行き不安

を理由に一切行わなかった機構に対し、組合員からは使命感だけでは働き続けられない、我慢の限界だと怒りの声が上がりました。全医労はストライキを構えた賃金闘争をたたかう事を意思統一しました。

「患者の命を守るために」全国で指名スト

3月8日の4回目となる賃金交渉で機構は、私達に歩み寄る姿勢を見せないばかりか、交渉を打ち切りました。この姿勢は許せない、これでは患者の命を守れないと3月9日、全国各地で組合員の仲間が立ち上がり、各支部2名一時間の指名ストライキを決行しました。

31年ぶり、独立行政法人化以降初めてのストライキでしたので、不安の声もありました。しかし、多くの組合員の参加で宣伝行動や記者会見を行ない、職場の厳しい実態、国立病院機構や国の姿勢について社会的に、大きくアピールすることができました。医労連や国公労連をはじめとする全労連の仲間の皆さんからもたくさんの支援をいただき、元気をいただきました。本当にありがとうございました。

今、国会でも全医労のストライキや職場の実態などが取り上げられています。ストライキを構えてたたかった大きな成果の一つです。私たちのたたかいはまだまだ続きます。患者の命を守り、誰もがやりがいを持って働き続けられる職場を目指し、気候や国の姿勢を変えるために、全医労は団結してたたかっていく決意を表明します。メーデー万歳！労働者の団結万歳！